

か	思		る	で	女			通	て	た	「	ず		に	っ				色
ら	っ	正	と	い	の	「	彼	じ	い	か	異	に	同	認	た	私	「	高	
。同	た。家	直、親	思	たい。	子	親	女	や	た	ら	性	は	性	め	人	が	う	山	
時に、	族は	にぐ	つ	だけ	を	に	は	な	の	だ	同	は	を	合	が	人	ち	市	
彼女が	一番	らい	て	ど、	好	は	絶	い	だ	。今	士	い	好	う	い	権	、	立	
欲しい	信用	相		結	きに	話	対	と	。そ	思	で	き	に	事	。冒	作	女	清	
と望	できる	談し		月	なら	を	相	感	して	え	す	な	な	の	頭	文	の	見	
んで	存在	ても		なら	らん	続	談	じ	、少	ば、	る	か	つ	大	の	を	子	中	
いる	のは	いい		受け	やろ	け	で	てし	な	、恋	も	っ	た	切	告白	く	を	学	
言	はず	のに、		入れて	。親	た。	き	ま	から	愛	の	。恋	と	さ	を	時、	好	校	
	だ			くれ	の前		ん	う自	ず彼	を	だ	愛	聞	を	教	、文	きに	三	
					では			分が	女を	白	と	い	いた	えて	れ	章に	な	年	
					普通			がいた	「普	か	思	う	時、	くれ	た。	した	った	阿	
										黒	つ	のは	動			友人	んや。	部	
										か	と	は、	揺			が、私	。」	結	
										で	っ		せ					月	
										捉	て								
										え	い								

（性別越境者）の四種類があり、これらの頭	シユアル（両性愛者）トランスジェンダー	性同性愛者）ゲイ（男性同性愛者）バイセク	一つ目は、性的少数者にはレズビアン（女	く三つの事を学んだ。	は真剣に聞こうと決めた。この授業では大き	があった。いつもは適当に流す授業も、今日	わんばかりのタイミングで性について授業	あの日から何日か経ち、待ってましたと言	色」を受け入れられずにいた。	らないはずなのに。結局私は、「自分と違う	負ってきた苦しさや大変さなんて何一つ分か	「大変だったね。」これのみだった。彼女の背	れない。散々迷った末、私が掛けた言葉は	言え、却って彼女を傷つけてしまいかもし	なかつた。性への知識がないまま下手な事を	た事の無い相談では驚くほど言葉が見つから	単に助言や慰めの言葉が見つかるのに、され	間関係や男女間の恋愛について相談では簡	葉を掛けてあげたいとも思つた。しかし、人
----------------------	---------------------	----------------------	---------------------	------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	----------------	----------------------	----------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------

を	た	れ	か	っ	受	「	な	ね	動		な	ね	を	葉	B	る	解	つ	文
選	だ	た	も	た	け	色	言	。	を	こ	の	。	も	が	T	と	さ	目	字
ん	ろ	。こ	し	か	入	」	葉	は	振	の	だ	な	つ	あ	で	い	れ	は	を
で	う	の行	れ	か	れ	を	だ	、	り	授	とい	、	知	と	あ	う	な	、	取
く	か	動に	ない	。そ	る	普通	った	本	返	業	いう	れ	れ	い	る	事	か	彼	っ
れた	。親	に、	のに	の上	事	じや	だろ	当	った	を	。私	良	事	だ	。三	。三	つ	らは	L
のも	でも	ど	私に	、彼	を放	ない、	うか	に	。私	受		か	だ	は	目	、	数	派	G
私な	なく	んな	カミ	女は	棄し	と遠	。彼	友	の言	け		つ	。や	あ	は	、	の	人	T
ら嬉	、兄	に勇	ング	自分	した	ざけ	女の	人	った	、も		あ	」あ	け	彼	の	間	と	
しい	妹	気	グア	が理	適当	向	の持	を	「大	う一		なた	ば、	た	ら	対	で	呼	
言葉	でも	が必	ウト	解さ	な言	きあ	って	傷	変だ	度自		らし	、	時	は自	象	あ	ば	
を掛	なく	要だ	して	れない	葉じ	あう	いる	つけ	った	分の		い	言	賞	分が	に	る	れ	
け	、私	った	てく	い	やな	事		ない	「大	し		切	事	つ	自分	なる	が	て	
					か			いた	変だ	た行				嬉	L	事	が	い	
								めの	った					しい	G	あ	、理	る	
								の善						言				。二	

、

な	人	る		ろ	マ	の	た	関	に	同	い	何	成		の	ユ		し	申	て
か	が	。マ	私	う	ッ	、	。私	係	も	士	う	度	長		ダ	メ	数	何	し	く
っ	手	マ	は	。	ク	親	の	を	驚	だ	練	も	に		ン	ン	ヶ	を	訳	れ
た	を	ッ	、		ス	に	友	オ	い	っ	習	登	迫		サ	タ	月	言	な	る
。	繋	ク	「		と	は	人	ー	た	た	生	場	る		ー	リ	経	え	さ	と
も	い	ス	周		コ	絶	は	プ	が	。	が	す	と		を	ー	つ	ば	と	信
ち	だ	と	り		ナ	対	私	ン	、	性	人	る	い		目	番	て	良	、	じ
ろ	り	コ	の		ー	相	に	に	彼	的	物	人	の		指	組	、	い	後	て
ん	キ	ナ	環		、	談	こ	し	ら	少	に	、	が		す	を	父	か	悔	い
、	ス	ー	境		友	で	そ	て	が	数	二	マ	お		練	見	の	は	が	た
変	を	の	」		人	い	相	いた	他	者	人	ッ	お		習	た	進	分	募	か
な	し	周	に		で	と	談	事	の	同	は	ク	ま		生	。	め	か	つ	ら
も	て	囲	理		何	述	し	に	練	士	ゲ	ス	か		達	こ	で	ら	た	だ
の	い	の	由		が	べ	て	は	習	が	イ	と	な		の	の	あ	な	が	ろ
を	ても	練	が		違	て	く	さ	生	恋	で	コ	内		過	番	る	い	結	う
見	も	習	あ		った	いた	れた	ら	に	人	あ	ナ	容		去	組	海	ま	局	。
る	何	生	る		の	る	も	に	自	で	り	ー	だ		や	は	外	ま	彼	罪
よ	も	は	と		だ	。	の	驚	分	あ	、	と	っ		心	、	の	だ	女	悪
う	言	、	考					い	達	る	恋		た		情	プ	ドキ	に	対	感
な	わ		え						の	事	人				、	ロ				と

。

。

、

「	い	ん	出	こ	だ	考	最	彼	的	の	言		だ	っ	「	二	だ	「	視
色	。	だ	会	れ	と	え	初	女	少	で	っ	私	と	て	色	人	っ	お	線
ん	今	。	う	か	い	る	の	も	数	は	た	の	思	い	ん	の	て	似	や
な	の	」	だ	ら	う	の	私	胸	者	な	。	友	う	る	な	関	い	合	、
色	私	と	ろ	高	事	で	の	を	が	く	私	人		か	色	係	い	だ	冷
が	な	軽	う	校	を	は	よ	張	い	、	は	は		ら	が	は	ね	た	たい
あ	ら	く	。	に	一	な	う	っ	る	周	彼	「		、	あ	「	！	い	視
っ	、	受	そ	入	人	く	に	て	事	囲	女	親		二	っ	普	な	線	を
て	友	け	の	っ	一	、	、	自	が	の	が	の		人	と	通	ん	送	る
良	人	止	時	た	人	も	物	分	当	前	世	前		を	良	で	て	事	も
い	に	め	は	ら	が	っ	事	を	たり	で	間	では		受	い	「	明	も	無
」	こ	ら	「	、	理	と	を	さ	前	あ	体	普		入	と	当	る	い	。
	う	る	こ	も	解	色	ら	け	で	る	の	通		れ	い	たり	く	。	む
	言	人	う	っ	す	んな	か	出	普	私	普	で		ら	う	前	声	し	ろ
	葉	に	い	と	べ	な	黒	せ	通	達	通	いた		れ	考	「	を		
	を	私	う	色	き	が	か	る	に	の	に	たい		て	え	で	掛		
	掛	は	色	んな	だ	あ	の	思	な	中	合	。」		い	方	、	け		
	ける	なり	も	人	と思	る	二	う	れ	で	わ	と		る	を持		る		
	。	た	あ	に	う	の	択		ば	性	せる			の			人		

。

。

、

、